

3年1組 外国語科学習指導案

公開 3

1 単元名 Uni7 This is for you.

場 所：北舎2階 3年1組教室

学 級：3年1組 30名

授業者：水谷 麻友子

Mohammad Irwan Laming

2 単元について

単元目標

友達にお礼を伝えるカードを楽しく送るために、図形を指し示したり、相手に問いかけたりしながら、カードについて説明し合うことができる。

【単元の概要と学習指導要領との関連】

第3学年及び第4学年の外国語活動の目標（2）話すこと〔やり取り〕イ「自分のことや身の回りのことについて、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うようにする。」を受けての学習内容となる。

本校は、話すこと（やり取り）第3学年学習到達目標を以下のように設定している。

基本的な表現を用いて挨拶や簡単な指示などをしたり、それに応じたりする。また、自分のことや身の回りの物について、好き嫌いなどを動作を交えながら伝え合うことができる。

本単元は、図形についての表現に慣れ親しんだり、ほしいものを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しんだりする単元である。また、相手に伝わるように工夫しながら、自分の作品を紹介しようとする単元である。本時は、図形を用いて、カードに模様を描いて準備してきたものを、相手に送り合う一時間である。誰のために、どんなカードを送るか、意欲をもって考えさせたい単元である。そして、カードを送り合う際には、ただ渡すのではなく、自分が相手のために考えた点などを伝えながら、相手とのやり取りを楽しんでコミュニケーションすることができるようにする。第3学年の到達目標達成を見据え、本単元での相手と楽しんでコミュニケーションをとるための方法を「図形を指し示すこと、相手に問かけること」と設定した。そのために、まず、相手意識と目的意識をはっきりもたせ、図形やカードを説明したり送り合ったりするための言語材料にたくさん慣れ親しませた上で、本時を迎えさせたい。

3 児童の実態

本学級の児童たちは、外国語学習に楽しみながら意欲的に取り組む姿が多く見られる。前期前半に行ったアンケートでは、英語そのものは苦手であると答えた児童も、学校の外国語の授業は好きだと答えた児童が100%であった。入学以来、授業を通して楽しみながら外国語に慣れ親しんできた結果であると言える。そうした児童たちが、外国語学習を通じて、より相手を大切にしたり、外国語に触れる機会を多くもてるようにしたいと考えた。そこで本年度、児童たちには、話すこと（やり取り）における学習において、相手意識を大切にしたい指導を行ってきた。例えば、聞いてもらってうれしくなる反応として、リアクション（共感：Me, too!、称賛：Oh! / Nice!）、エコーイング（繰り返し）などを指導してきた。その中で児童たちは、「反応してもらえると、聞いてもらっていることが伝わってうれしい。」「相手と同じものが好きだとわかるともり上がる。」（児童の振り返りの記述より）などという気持ちを実感してきた。また、相手に対して質問をすることで、「相手の意外なことがわかると楽しい。」「たくさんの人が自分と同じものが好きだとわかっておもしろかった。」といった感想を抱いてきた。具体的な質問の仕方として、本単元までに児童は、Unit4 I like blue.で Do you like ～ ? を用いて、相手が好きかどうかを尋ねる表現を学んだ。また Unit5 What do you like?では、What ～ do you like? を用いて、相手が好きなものについて尋ねる表現を身に付けている。

そこで本単元では、こうした表現を必要に応じて活用しながら、自分が作ったカードについて、カードのみを見て説明することに夢中になるのではなく、相手意識・目的意識をもって伝えたい部分について指し示したり、相手に問いかけて相手の反応を確かめたりしながらカードを紹介する姿を目指したい。

4 研究内容にかかわって

研究内容1：付けたい力を明確にした単元構成の在り方

- ・単元で付ける力の明確化とその具現に向けた指導計画の工夫

学習指導要領解説によると、外国語教育における学習過程として、①児童が設定されたコミュニケーションの目的や場面、状況等を理解する、②目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる、③目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う、

④言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行う、という流れの中で、学んだことの意味付けを行ったり、既得の知識や経験と、新たに得られた知識を言語活動で活用したりすることで、「思考力、判断力、表現力等」を高めていくことが大切であると示されている。

このことを踏まえ、本単元では、①外国語学習で高め合ってきたペアに「感謝の気持ちを伝えるカードを送ろう」と設定し、単元の最初に意欲と見通しをもたせうえで単元の学習に取り組ませるようにする。②について、活用させたい表現を教師がすべて提示するのではなく、児童が単元の目標をもとに必要性を感じて想起できるよう促す。そうした目標達成のために、③にあるように、様々なコミュニケーションの実践を通して、表現の定着を図る活動を仕組む。④の振り返りでは、毎時間、視点を設定した振り返りシートを活用し、児童が自らの伸びを実感できるようにする。

研究内容2：主体的・対話的な学びを通して、確かな力を身に付ける指導・援助の工夫

（1）コミュニケーションの目的や場面、状況の具体的な設定の工夫

本単元では、様々な形を表す語や何が欲しいかを尋ねたり答えたりする表現に出会う。そして、それらの語や表現などを用いながら誰かに送るためのカードを作り、紹介し合う。そのため、誰に、何のためにという目的意識をもたせ、意欲につなげたい単元である。これまで、児童たちは、4月最初の授業で教師と3つの約束をし、外国語学習において相手を大切にしたい学習を行ってきた。3つの約束は以下の通りである。

- ① いつでも、どこでも、誰とでもペア活動をする。
- ② 時間いっぱい、できる限り英語で話す。
- ③ 誰のことでも相手を大切にすること。

外国語学習を楽しんでいる児童は、9割に及ぶ（前期前半のアンケートより）。そうした実感は、相手を大切に、大切にされたペア活動を行っている児童たち自身が生み出したものである。今回、12月末は、席替え前最後に近い時期であり、これまで一番そばで高め合ってきた隣の席や号車でのペアとも別れが近づいている。そこで、本単元のゴールを「友だちにお礼を伝えるカードを送ろう」とし、ペア活動の今までの感謝を伝える場として設定した。

（2）主体的にコミュニケーションを図ろうとする学習過程の工夫

ペア活動などのコミュニケーション活動について、練習したことを話させる場ではなく、対話を通して鍛える場として捉えている。チャンツやイラストを用いて、音や視覚とつなげてイメージしながら繰り返し聞いた語や表現をコミュニケーション活動の中で想起できるよう、活動と Share time を交互に位置付け、中間指導を行う。その中間指導の中で、わかりやすく指し示す方法として相手にタブレットの図形を見せながら指を指すことを指導する。また、相手が興味をもてるように問いかけるには、既習事項の Do you like～? や What's this? などの表現を用いるとよいことを学ばせる。

また、本単元での色・形を用いた模様を描く活動を、タブレットのロイロノート機能を活用して行う。そうすることで、効率的に多様な図形を準備することができる。また、児童たちも張り直すことができない紙と糊を使った作業に対し、タブレット上では何度も簡単に操作し直すことができる。さらに、Lesson6 で学んだアルファベットによる簡単なメッセージの記入も容易にできると予想される。こうした点から、タブレットを用いた授業展開をすることで、児童の発想の幅をより広げられると考えた。

研究内容3：自分の変容が自覚できる評価の在り方

・相手に「伝わった」、相手のことが「わかった」と実感し、伸びや変容を自覚できる評価の工夫

評価には、発言と振り返り用紙を活用する。本時の課題は、「お礼を伝えるカードを楽しくなるように送ろう」である。友達のために作ったカードをただ渡すのではなく、対話のやり取りで楽しく感じられるような工夫をさせたい。本時生み出したい児童の「楽しくなる」ための対話の工夫は、「指し示す」「問いかける」ことである。それを踏まえて、本時の振り返りシートには以下の項目を用いる。

- ① 友達が楽しくなるようにカードを送ることができましたか。
- ② 図を説明するとき、図形をさし示すことができましたか。
- ③ 図を説明するとき、英語で相手に問いかけることはできましたか。
- ④ 友達にカードを送るとき、楽しくなるように工夫したことは何ですか。

項目④は自由記述になるが、記述の際に、振り返りの視点を与えて書かせることで、①～③の記述について具体的にどのような工夫をすることができたか、見取る手助けになると考えた。

5 単元指導計画（全5時間）

〈研究内容1にかかわって〉

友達に送るカードを準備した上で本時を迎える。

Do you like ～ ? / What ～ do you like? / What's this? など、本時用いる主な表現について、児童が有効性を感じて自然と使うことができるよう単元を通して、チャンツやイラストを用いて表現を想起することを繰り返し復習してきた。

こうした表現を用いて対話している児童を抽出し、実際にやり取りして使わせるなどしながら、他の児童にも広め表現の幅を広める。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日本語と英語の音声の違いに気付く、形の言い方や、欲しいものを探ねたり答えたりすることに慣れ親しんでいる。	お礼を伝えるカードを作ったり送ったりするために、相手に伝わるように工夫しながら、図形について尋ねたり答えたりして、伝え合っている。	お礼を伝えるカードを作ったり送ったりするために相手に伝わるように工夫しながら、図形について尋ねたり答えたりして、伝え合おうとしている。

時	学習のねらい 【キーワード】	学習活動	評価規準（方法）
1	形の言い方について、日本語と英語の音声の違いに気付く、聞いて判断したり、指し示したりする。 【triangle, square, circle, diamond, heart, star】	1 場面設定、課題設定 絵の中にかくれている形を見つけよう。 2 追究活動 ・ Let's Play 1 ・ Let's Play 2 ・ Let's Chant ♪ What do you want? 3 いろいろな形の言い方が分かった。素敵なカードを送りたい。	本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する。
2	形の言い方に慣れ親しむとともに、欲しいものを表す表現を知ることができる。 【What do you want? ～, please.】	・ Let's Chant ♪ What do you want? 1 場面提示、課題設定 どんなふうにはしい形を集めたらよいのだろう。 2 追究活動 ・ Let's Listen ・ Let's Watch and Think 3 ほしい形をもらう方法が分かった。色々な形を集めたい。	
3	色や形、欲しいものを訪ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。 【3(数) triangles(形).】	・ Let's Chant ♪ What do you want? 1 場面提示、課題設定 世界の様々なカードを知り友達に送るカードについて考えよう。 2 追究活動 ・ Let's Watch and Think 3 友だちが喜んでくれそうな面白いカードができそうだ。	
4	友達に送るカードの材料を集めるために欲しいものを探ねたり答えたりして伝え合うことができる。 【What do you want? ～, please. How many ～ ?】	・ Let's Chant ♪ What do you want? 1 場面提示、課題設定 色々な形を集め、友だちに送るカードを作ろう。 2 追究活動 ・ Activity 3 色々な形を集められてうれしい。カードを渡すのが楽しんだ。	・ 欲しいものを探ねたり答えたりして伝えあっている。 【思考・判断・表現】 (タブレット、プリント、対話)
5 (本時)	友達にお礼を伝えるカードを楽しく送るために、図形を指し示したり、相手に問いかけたりしながら、カードについて説明し合うことができる。 【問いかける、指し示す】	・ Let's Chant ♪ What do you want? 1 場面提示、課題設定 お礼を伝えるカードを楽しく送ろう。 2 追究活動 ・ Activity 3 指でさしたり、質問したりしながらカードを渡せて楽しかった。	・ 図形を指し示したり、相手に問いかけたりしながら、自分のカードについて相手に説明している。 【思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度】 (タブレット、プリント、対話)

6 本時の展開（5／5時）

本時のねらい	友達にお礼を伝えるカードを楽しく送るために、図形の色や形を指し示したり、相手に問いかけたりしながら、カードについて説明し合うことができる。 【思考・判断・表現・主体的に学習に取り組む態度】 本時のキーワード 指し示す、問いかける
学 習 活 動	研究にかかわって
1. Greetings 2. Song 3. Today's Topic - JTE と ALT による児童とのやり取りを通して、本時の目指す姿を理解する。 A: This is my card. One yellow big circle, eight pink circle, one green rectangle, two green triangles. What's this? B: Well...a flower? A: That's right! Do you like flowers? B: Yes, I do! A: Me, too! Nice! Here you are. B: Thank you! 4. Today's Aim お礼を伝えるカードを楽しく送ろう 5. Challenge Time and Share Time A: This is my card. Three green triangles, one star, brown rectangle, one white circle, one red triangle. What's this? B: A Christmas tree and Santa Claus! A: That's right! Here you are. B: Thank you! - ロイロノートを用いてカードを示し説明する。 - ロイロノートで相手にカードを送る。 「指し示す」「問いかける」というキーワードを用いて、相手が楽しくなるためのポイントを理解していく。 6. Comment Time - 本時、できるようになったことを振り返る。 - What's this? と聞いたとき、相手が当ててくれるとうれしかった。 - 問いかけて相手が反応してくれると、わかってきているということが伝わった。	〈研究内容2にかかわって〉 - Let's Chant ♪ What do you want? を歌い、表現をリズムに乗せて繰り返し反復する。 - Today's Topic では、JTE と ALT による児童を巻き込んだインタラクティブなやり取りを行い、カードを紹介されることが楽しいと実感させる。 - 音声と意味の一致を図ったイラストを提示し、既習内容が想起しやすいように配慮する。 - 指を差し示しながら図形について説明している姿を価値付け、広める。 - Do you like~? / What ~ do you like? / What's this? を使って、相手が楽しくなるよう工夫している姿を価値付けて広める。 - 児童の言葉を用いて、楽しくするためのポイント（「指し示す」「問いかける」）を整理していく。 - ペアで交流する際、英語でどのように言えばいいかわからなかった表現などを全体で確認する。 〈研究内容3にかかわって〉 - 楽しくなるための工夫としての「指し示す」「問いかける」を視点に、振り返りシートに記述する。 評価規準 図形を指し示したり、相手に問いかけたりしながら、自分のカードについて相手に説明している。 【思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度】 (タブレット・プリント・対話)